

令和6年度

那覇市の管理職における女性割合

令和6年度那覇市の管理職219人に占める女性の割合は20.5%となっており、前年度比との比較では2.1%の上昇となりました。

部長級21人中女性5人、副部長級31人中女性6人、課長級では167人中女性34人となっており、昨年に比べて3.5%の上昇です。

また主幹級では、334人中女性120人で女性比率35.9%となっています。

	女性	男性
部長級 (21人)	5人 23.80%	16人 76.20%
副部長級 (31人)	6人 19.40%	25人 80.60%
課長級 (167人)	34人 20.40%	133人 79.60%

課長級の女性比率の伸び率は、前年度比3.5%と、上昇しています!

これまでの管理職職員の女性比率をみると、前年度比最高の伸び率です!!

各年(4/1時点)	R2	R3	R4	R5	R6
管理職数	218人	218人	219人	217人	219人
女性管理職数	39人	39人	39人	40人	45人
女性の比率	17.9%	17.9%	17.8%	18.4%	20.5%

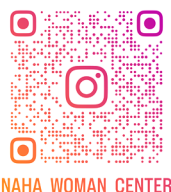


同じく、内閣府男女参画局が発表した「都道府県の本庁課長相当職女性割合」では、1位福井県庁、2位福岡県庁に続き、沖縄県庁は3位でした。

都道府県の本庁部局長・次長相当職 女性割合ランキング!

1位	沖縄県庁	16.9%	6位	石川県庁	11.6%
2位	福井県庁	14.8%	7位	鹿児島県庁	10.3%
3位	兵庫県庁	14.0%	8位	三重県庁	10.2%
4位	富山県庁	13.8%	9位	栃木県庁	10.1%
5位	長野県庁	13.0%	10位	山梨県庁	9.4%

出所：内閣府男女共同参画局「女性活躍推進法見える化サイト」より作成(R5年度公表数値)
*職員全体における本庁部局長・次長相当職 女性割合を算出している17団体中の上位10団体



NAHA_WOMAN_CENTER

「インスタグラム」

★\インスタ開設しています! /

なは女性センターの公式Instagramをご紹介します!
施設に関する利用情報や開館案内の他、たくさんの女性たちが元気になるような情報をお届けします。ぜひのぞいてみてくださいね。



中島幸子さんが語る「性暴力被害」の実際

日時：2024年3月7日(木) 午後2時～4時 (参加者15人)

講師：中島 幸子(NPO法人レジリエンス代表 米国法学博士)



講師の中島幸子さんに「性暴力被害」の実際について」をテーマにお話しいただきました。

▶講師の中島幸子さん



中島幸子さんには、2014年に『性暴力 その後を生きる』～性暴力のない環境と一人ひとりの内なる力を信じて～」をテーマに「性暴力を認めない社会を築くにはどうすればよいのか」について、お話しいただきました。

10年ぶりの今回は、「性暴力被害者の実際」について語っていただきました。

講義内容は、「トラウマとは」から始まり、「性暴力と性犯罪・暴力の責任・性的自己決定権・ Consent・性行為と性暴力・解離はサバイバルの手段・解離のスペクトラム」など、多様な項目について写真やデータを交えて、わかりやすく、講義をしていただきました。

「性暴力と性犯罪」では、性暴力被害者の訴えを「逃げようとしたか?」「抵抗したか?」「助けを求めようとしたか?」等と問われ、「犯罪」を認める機関の警察や法廷においても二次被害に遭う場合が多いことについて知りました。

被害を訴えようとした人が二次被害という、もう一度酷い目に遭うことになれば、加害者を訴えることも難しくなります。そのことが結果的に加害者を野放しにしてしまうことになってしまいます。

社会の無理解が、性暴力の被害者を追い詰め、第二の被害を生んでいることに気づかなくてははいけません。夫婦間でも恋人間でも性暴力は発生します。職場関係、親戚や家族など、身近な人からの性暴力も多いのです。加害者に加担してはいけないことを再認識することができました。

中島さんが代表を務めるNPO法人レジリエンスの「レジリエンス」とは、暴力をうけて深く傷ついた人が、心の傷に気づき、向き合い、傷を癒し、自分自身を取り戻していく「回復力」を意味します。今でも、解離やフラッシュバック、うつ症状を抱えながらも、全国で講演会やセミナーを開催している中島さんの活動に、心的外傷後成長(PTG: Posttraumatic Growth)という新たな可能性を感じました。

質疑応答の時間にも多くのことを学びました。

平日の昼間に受講して下さった皆さま、ありがとうございました。

2024年度沖縄県女性海外・国内セミナー
「女性の翼」参加者募集

主催：一般社団法人沖縄県女性の翼の会



この事業は、公的機関、女性の社会活動、教育、労働、福祉、環境、人権等の視察研修、制度の調査等を通して、沖縄県及び地域社会で貢献できる女性リーダーの育成及び資質の向上を目的としています。今年度は「女性の翼40年 世界を知ろう!平和をつなごう!!」のテーマで実施されます。

- ◆研修国：台湾（台北・台中）5日間
- ◆参加費：1人あたり163,500円程度（宿泊費、食事代、諸税金、研修資料代等）
- ◆研修期間：2024年9月19日(木)～23日(月) 4泊5日
- ◆募集期間：2024年5月7日(火)～6月28日(金)（郵送の場合当日消印有効）

*詳しくは、「沖縄県女性の翼 事務局」へ お問い合わせください。

TEL：098-917-4677 FAX：098-917-4688

E-mail：tsubasa.okinawa@theia.ocn.ne.jp

*那覇市では研修参加者に対し研修参加費用の一部を助成します。詳しくは、なは女性センターまでお問い合わせください。



▲2023年度の報告書。当センターでも閲覧できます!

①『ドイツの女性はヒールを履かない』

サンドラ・ヘフェリン著／自由国民社発行／2023年7月20日発行

「がんばりすぎる日本人女性に“ほどほどに、がんばる”をお勧めします」

よく歩き、よく話し、よく寝て、家事は外注し、週末を楽しみにして自分らしく、ゆったりと生きている…そんな「ドイツ流」を、あらゆる場面で「がんばりすぎている」「世界で一番短い睡眠時間」の日本人女性たちが取り入れて、自分らしく人生を謳歌して欲しい。

「多文化共生」をテーマに執筆活動をするエッセイストである著者サンドラ・ヘフェリン氏が、がんばりすぎる日本人女性に提唱する「無理しない、ストレスから自由になる生き方」の指南書です。



②『もう一人、誰かを好きになったとき』 ポリアモリーのリアル

荻上チキ著／新潮社発行／2023年11月30日発行

「愛する人は一人だけじゃない、ポリアモリーという生き方。」

日本社会に生きる多くの人々は、単数愛を前提とする価値観を持っています。つまり恋愛といえば、「一対一で行うもの shouldn't」という考え方を信じて疑いません。対してポリアモリーとは、相手の合意を得たうえで、ふたり以上の恋人やパートナーを持つ、いわゆる「複数愛」の関係性を指します。不倫や浮気と何が異なるのか？嫉妬の感情は生まれないのか？社会のなかで抱える困難とは？等、日本に暮らす当事者100人以上に取材・調査してその実態を伝える、国内初の複数愛ルポルタージュです。



③『ぼくのスカート』

ピーター・ブラウン＝文・絵 日高康晴＝訳・監修／小学館発行／2023年2月27日発行

「人は違って当たり前」

「みんなと同じでいること」を求められることが多い社会の中で、自分自身が周囲と少し違うかもしれない…あるいは我が子が他所の子どもたちと違って、ちょっと特別かもしれない…と感じる部分があるとしたら。

戸惑う気持ちよりも大切なことは「あなたはあなたらしく、あなたのままで」と思う気持ちではないでしょうか？天真爛漫な主人公・フレッドの個性的な美意識や感覚、そんなフレッドに対する両親のあたたかい眼差しと愉快に接する姿。「人は人と違って当たり前」だということが、ストレートに伝わってくる素敵な絵本です。



平和交流・男女参画課から

4月になり、なは女性センターでは、新たな旅立ち、出会いがありました。スタッフからのメッセージをお届けします。



なは女性センター担当副参事です！

～まちづくり協働推進課から異動してきました～

はじめまして。この度、まちづくり協働推進課から異動してきました與那覇(よなは)と申します。これまで、ボランティアや市民活動をされている皆さまの支援に関するお仕事を行ってきました。なは女性センターでのお仕事は初めてですが、皆様とご縁を大切にしながら、やっていきたいと思っております。これからよろしくお願ひします。(與那覇 るみ)

～監査委員事務局へ異動しました。～

3年間お世話になりました。令和6年4月に監査委員事務局へ異動となりました。なは女性センターでの3年間は、たくさんの気づきと多くの学びを経験させていただきました。深く感謝申し上げます。また、とても素敵な方々との出会いにも心より感謝申し上げます。なは女性センターの更なる活躍と発展を心より願っております。(比嘉 さおり)

新スタッフです！

はじめまして。この度、4月より指導員として仲間に加わりました。不慣れな点も多々あるかと思いますが、多くの市民の方が自分らしく活躍できるよう尽力し、笑顔で温かく、かつ丁寧に皆さまに寄り添って参りたいと思っております。頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。(櫻井 早織)

新しくスタッフとなりました。

はじめまして。令和6年度、なは女性センター指導員として採用された真境名(まじきな)と申します。10年以上前に那覇市の公立公民館で社会教育指導員として三年間勤務して以来の那覇市のお仕事になります。なは女性センターでのお仕事は初めてですが、利用者の皆さんのお役に立てるように頑張りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。(真境名 育恵)

